

「医療」編集会議に参加して

国立がんセンター中央病院 診療放射線技師長

福 島 均

平成17年4月から他の医療職(二)の方々とともに編集会議に参加することとなった。新参者の自己紹介ということで、診療放射線技師の現状などをお知らせしたい。

放射線は、診療放射線技師の過去の俗称がレントゲン技師と呼ばれていたように、レントゲン博士のX線発見に始まる。1890年代盛んだった陰極線の研究中に磁場の影響を受けない未知の放射線の存在に気づき、数学の未知数のXをもってX線と名付けられた。そしてこの時偶然居合わせた奥さん(ベルタさん)の左手の骨と指輪が人体を写した最初のX線写真となった。診療放射線技師の糧の誕生であり、続いて発見された放射能とともに現在の放射線診療の礎がこの期に築かれた。

日本への導入も早く1900年にX線装置が来たようだ。昭和17年に日本放射線技術学会が創立され、昭和26年に診療エックス線技師法が制定された。医療における放射線技術者が法的に確保されたわけである。その後昭和44年の法改正により、診療放射線技師が誕生した。

放射線技術教育を担う学校は、各種学校から短大、4年制大学、大学院へと医療の発展に伴う形で進化してきている。さらに、医療技術の高度化、多様化により第一線で働く診療放射線技師には新たな医療技術の修得が求められている。そのために、多くの卒後研修、技術認定制度などが設けられている。それらの一部は既に診療報

酬にも反映されている。

診療放射線技師に求められている資格として、放射線の安全活用・管理に必要な第1種放射線取扱主任者、第1種作業環境測定士、エックス線作業主任者、ガンマ線透過写真撮影主任、衛生工学衛生管理者などがあり、臨床面の資格・認定技能名として検診マンモグラフィ撮影技師認定、放射線治療品質管理士、放射線治療専門技師、医学物理士、超音波認定技師、核医学専門技師などがある。多くの診療放射線技師がスキルアップをめざしこれらの取得をしている。

新しい資格取得のモチベーションは、診療放射線技師は、診療放射線技師法によって、人体に放射線を照射する業務をすることが認められ、業務独占としているが、その業務だけに固執するのではなく、患者さんのための医療を病院というチームの中で積極的に提供したいというところから生まれている。既成でなく患者様のための一歩進んだ医療を担いたいと思うからである。旧国立病院療養所が独法化された今、病院が地域で生き残るためには発想を変え新しい取り組みが必要となっている。診療放射線技師は上手く活用されることを待っている。

最後に、編集に携わる委員として、全国国立病院療養所放射線技師会の協力を得ながらではあるが、診療放射線技師の国立医療学会への入会の促進、そして「医療」への投稿の促進。どこまで実現できるかは不透明ではあるが、努力は惜しまないつもりである。